

活動状況報告書

事業者(氏名)	末永和幸
所属機関・職名	応用地質研究会ヒ素汚染研究グループ／代表

活動題目	バングラデシュの水供給困難地域における安全な水利用のための技術支援と環境教育
------	--

今期の活動内容と成果	(1) 給水施設維持管理支援 給水施設のモニタリングは、以前から継続している18か所で実施し、新規に2箇所、2018年修繕施設で停止中の1箇所 計3箇所の修繕を実施し、再稼働させた。2025年3月時点で合計20箇所の給水施設でモニタリングを実施している。 (2) 安全な水利用に関する環境教育 国際交流会議のバングラデシュ側対象校を、ヒ素汚染地域及び塩水化地域で各1校選定した。2025年1月に学校の状況を視察して学校長と担当教員にプログラムの概要を説明し、実施可能時期等の協議を行った。さらに、対処校の生徒10人に、近隣の給水施設の維持管理活動に参加してもらった。また、日本側の対象校を2校選定し、担当教員らと内容、時期について協議した。
------------	--

修繕の様子



ヒ素汚染地域学校の説明



活動地域	バングラデシュ
主な活動内容	安全な水利用と環境教育

報告年度	1年目	(2024年4月～2025年3月)	
今期助成額	100万円	今期達成度	80%

計画に影響した内容	災害・政変
今期成果指標	水施設の再稼働3箇所
今期成果指標	国際交流会議2企画準備

来期の目標・展開
(1) 給水施設維持管理支援 給水施設モニタリングを継続し、住民による適切な維持管理を支援する。新たに2箇所の停止中給水施設の修繕を行い、住民主体の維持管理による再稼働を支援する。本事業の有効性をバングラデシュの地方行政関係者に理解してもらい、制度化に向けた働きかけを行っていく。 (2) 安全な水利用に関する環境教育 日本とバングラデシュを繋いだ国際交流会議を2企画実施し、両国間の中高生での安全な水利用に関する理解を深める。バングラデシュ側の国際交流会議参加者（生徒）に給水施設の維持管理活動に参加してもらい、安全な水利用のための取り組みを考えてもらう。日本側の国際交流会議参加者（生徒）に途上国の水利用の困難さを理解してもらうとともに、地域の水道事業の重要性を学校内で議論してもらう。